

日本株投資戦略3月号

-日経平均は3万円乗せ。今後の投資戦略-

令和3年3月1日

アイザワ証券 市場情報部

2021年3月1日発行／審査番号：210301-B4

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa

- ・ 2月の株式市場
- ・ 2月の主要指数の月間騰落率
- ・ 日経平均と投資主体別売買高
- ・ 3月、4月の日経平均の騰落率
- ・ ドル円相場
- ・ 物色銘柄
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - 日本電産
 - ソニー
 - ソフトバンクグループ
 - キヤノン
 - 日立製作所
 - TOWA
 - 鹿島建設
 - 三菱UFJフィナンシャルグループ
 - MS&ADインシュアランスグループホールディングス

2月の株式市場 ～3万円の大台乗せ

マーケット情報

円、ポイント

	価格	移動平均線乖離率(%)		騰落率(%)			昨年高値	昨年安値
		25日	200日	1ヵ月	3ヵ月	1年		
日経平均	28,966	▼0.7	18.3	4.7	9.6	37.0	30,467	16,552
TOPIX	1,864	▼1.5	11.5	3.1	6.2	23.4	1,903	1,236
東証2部	7,324	1.3	12.5	4.4	12.6	21.0	7,484	4,817
JASDAQ	3,798	▼1.0	6.2	0.6	3.8	15.3	3,965	2,783
マザーズ	1,214	▼4.2	7.0	0.4	▼1.5	73.3	1,365	558

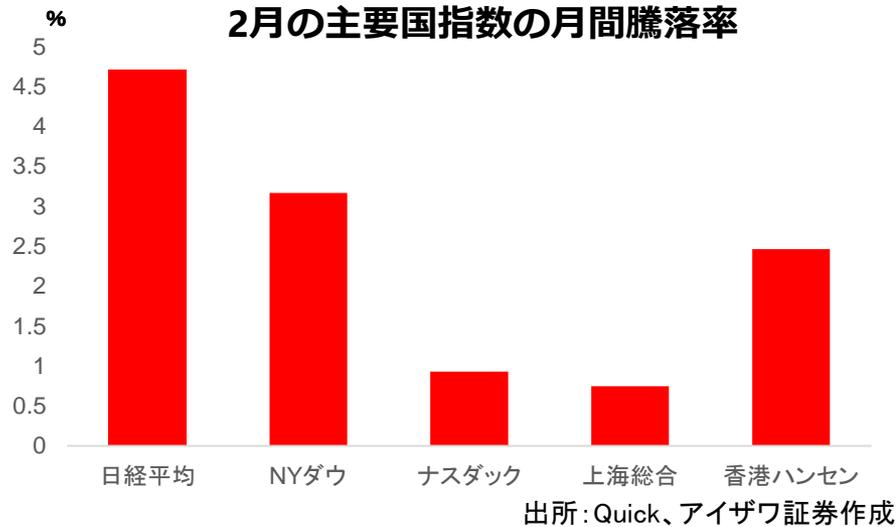
上昇率上位	銘柄	終値(2月25日)	値上がり率
5406/T	神戸鋼	671	37.8
6366/T	千代建	446	35.2
5401/T	日本製鉄	1,606	33.1
1605/T	国際帝石	790	30.6
9101/T	郵船	3,125	29.9
7211/T	三菱自	305	28.7
9984/T	ソフトバンクG	10,365	27.8
6473/T	ジェイテクト	1,182	27.8
5411/T	JFEHD	1,152	26.7
2531/T	宝HD	1,526	25.3
4902/T	コニカミルタ	567	25.2
8331/T	千葉銀	707	24.3
7762/T	シズン	393	24.0
7752/T	リコー	979	23.9
5901/T	洋缶HD	1,386	23.9
8308/T	リソなHD	444	22.4
3099/T	ミツコシセタン	784	22.1
3086/T	Jフロント	1,055	22.1
8830/T	住友不	3,854	22.0
9983/T	ファーストリテイ	109,550	22.0

上昇率上位	銘柄	終値(2月25日)	値上がり率
3825/T	REMIX	202	140.5
6172/T	メタップス	1,539	101.4
3696/T	セレス	4,080	58.3
3415/T	トウキョーブース	725	53.6
6094/T	フリークアウト	1,298	50.9
3628/T	データHR	4,385	46.4
6030/T	アドベンチャ	5,590	46.1
3926/T	オーブントア	2,512	43.4
3689/T	イグニス	2,329	39.0
3856/T	Abalance	4,710	37.7
2489/T	アドウェイズ	912	33.9
3914/T	JIG-SAW	16,910	32.1
6081/T	アライトアーキ	639	30.4
2929/T	ファーマフーズ	3,360	30.4
6181/T	タメニー	184	28.7
3773/T	AMI	916	27.4
8789/T	フィンテック	70	27.3
9416/T	ビジョン	1,131	26.7
3900/T	クラウドワークス	1,963	22.7
6046/T	リンクバル	351	22.3

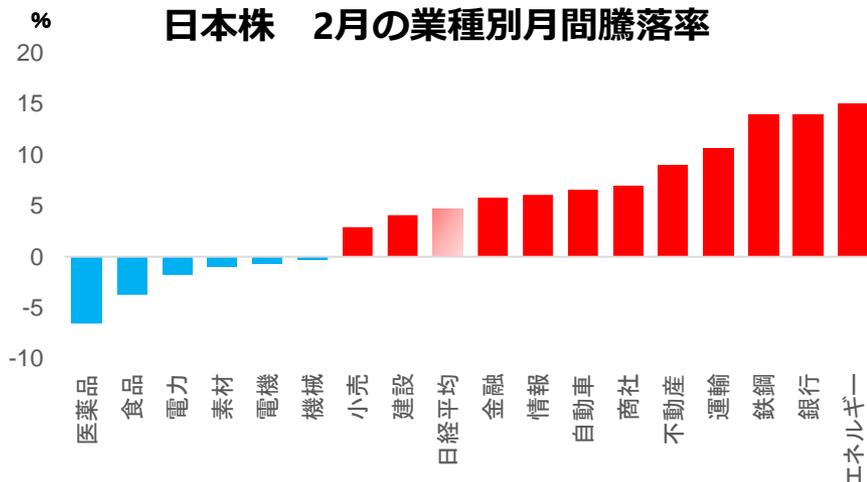
出所:Quick、アイザワ証券作成

- ◆ 日経平均は3万円の大台乗せ。2月の日経平均は2月15日に大きな節目であった3万円に乗せ、16日にはザラ場で3万714円（終値ベースでは3万467円）を付けた。2月の日経平均は前月末比で+4.7%で終え、TOPIXの+3.1%を上回って上昇した。一方で、日経平均の移動平均線からの乖離率は、5日移動平均線からが▼2.8%、25日移動平均線が▼0.7%となっており、短期では調整局面となっている。これも年初からの株価上昇によって、200日移動平均線からの乖離率が18.3%と高くなっていることの反動といえよう。
- ◆ 新興市場では、2月はJASDAQが前月末比+0.6%、マザーズが+0.4%とほぼ変わらずの水準で終えた。相場の流れが大型のバリューストック中心となる中で、個人投資家は売り越しが続き、新興市場は日経平均と比較して冴えないパフォーマンスとなった。

主要指数の騰落率

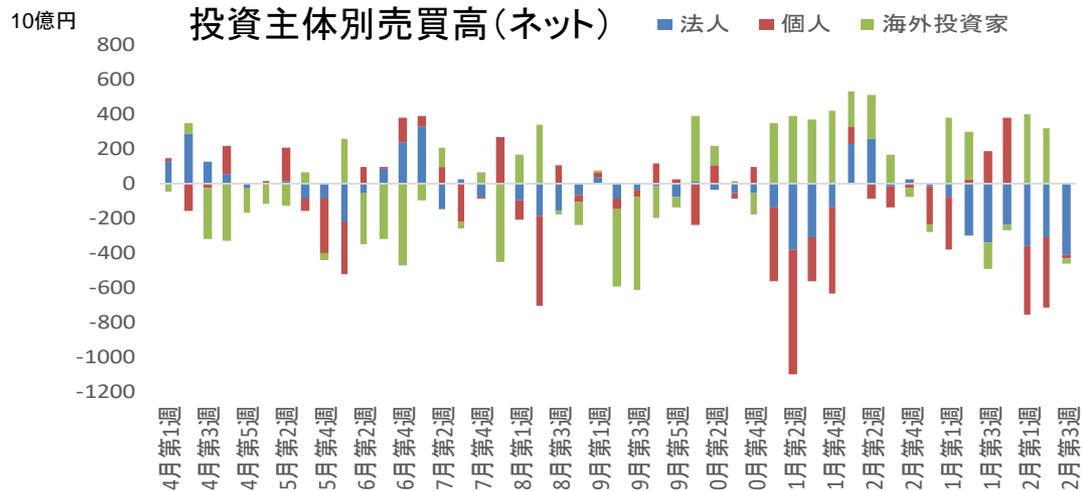


- ◆ 2月の主要国の株価指数のパフォーマンスでは、日経平均の上昇率が最も高く、NYダウ、香港ハンセンと続いた。ハイテク株の多いナスダックはプラスで終わったものの上昇率は低く、相対的に冴えないパフォーマンスであった。2月は全体的にテクノロジー銘柄のパフォーマンスが低かったことが伺える。



- ◆ 2月の業種別月間騰落率では17業種中、11業種が上昇、6業種が下落した。上昇率が高い順に、エネルギー、銀行、鉄鋼となっており、内需系のディフェンシブセクターの上昇率が大きかった。これは、1月の内需系のパフォーマンスが軟調であったことの反動で、セクターローテーション的に買われた結果といえよう。

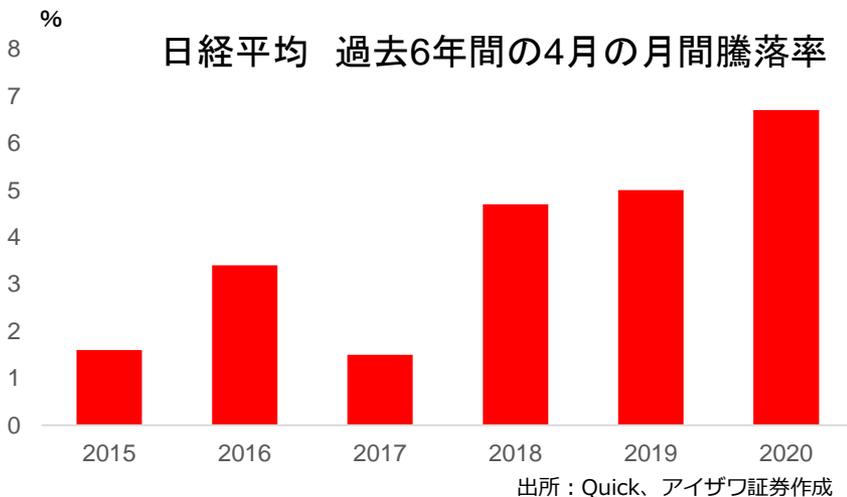
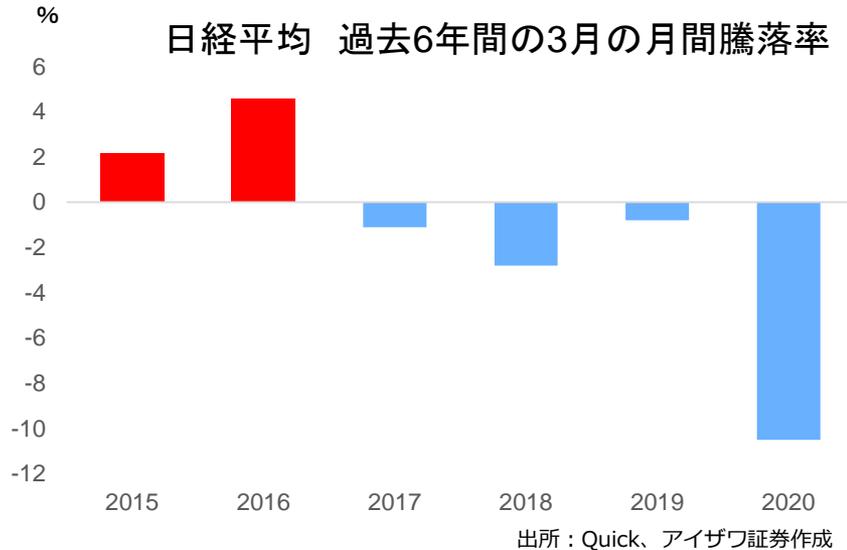
日経平均と投資主体別売買高



◆ **急ピッチな上昇に対する調整**：2月の日経平均は大きな節目であった3万円に乗せた。その後、月末には米国市場にて米10年債利回りの上昇を嫌気して、米国市場でグロース株を中心に株価が軟調になると東京市場でも調整が入り、2月末の日経平均は3万円割れとなる2万8966円で終えた。月末であった2月26日の日経平均の1日の下落率は▼1200円と実に4年8カ月ぶりの大きさではあったが、下落率で見ると4%程度であり、2月の日経平均は月間で+1303円（+4.7%）の上昇で終えた。200日移動平均線との乖離率が18%あることを考えると急ピッチな上昇に対する調整の範囲内といえよう。

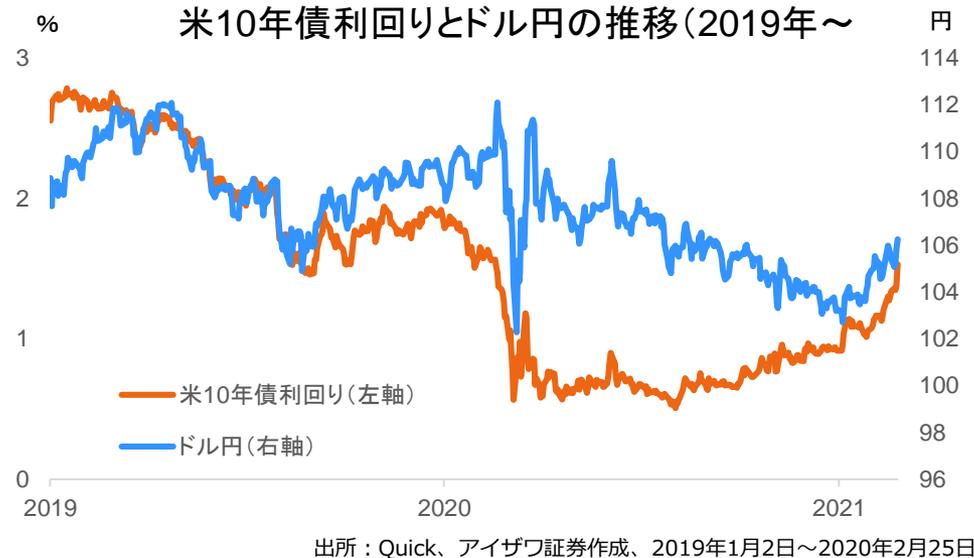
◆ **海外投資家が3週ぶりの売り越し**：2月の投資主体別売買動向では、第1週、第2週と海外投資家が買い越しとなっており、法人、個人は売り越しであった。第3週については個人は3週連続の売り越しで、それまでは買い越し基調であった海外投資家も3週ぶりの売り越しとなっており、法人、個人、海外投資ともに売り越しであった。

3月、4月の日経平均の騰落率



- ◆ 3月は軟調相場が続く：過去6年間の日経平均の3月の月間騰落率をみると、2勝4敗と負け越している。特に2017年以降は新型コロナウイルスの蔓延によって大きく下落した2020年3月は例外であったとしても4連敗中である。
- ◆ 一方、過去6年間の4月の月間騰落率は全ての年で上昇するという全勝である。4月下旬から5月は3月決算企業の決算シーズンとなる。3月は決算発表前の月ということで、企業業績など開示情報については材料不足の月になることから株価はやや軟調に推移する傾向にあった。3月の株価が軟調であったことに加え、新年度の企業業績に対する期待から4月の株価は堅調となる傾向にあったといえる。
- ◆ 今年についても3月に調整するようならば、押し目買いの機会となろう。20年10-12月の企業業績は自動車、産業機械、電子部品、半導体が好調であった。来期（2022.3期）の企業業績については、コロナ禍からの回復に加え、円安による輸出企業の業績押し上げ、ワクチンの普及による内需の回復が期待される。

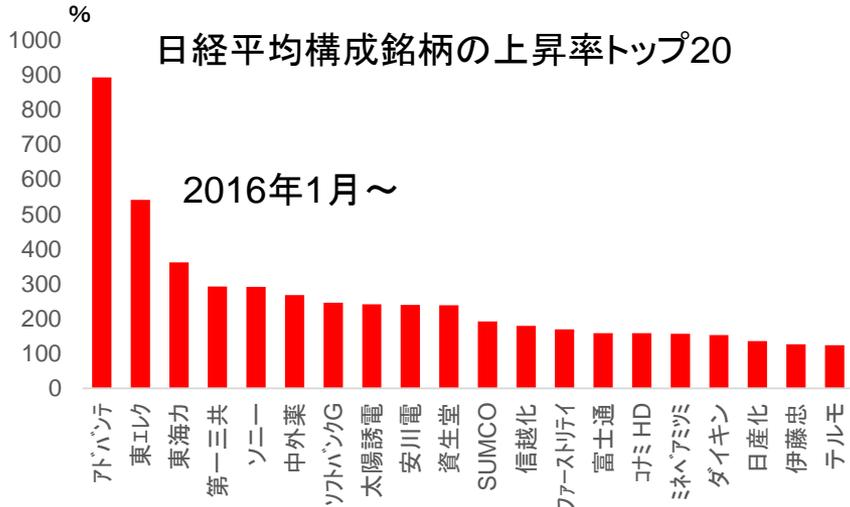
ドル円相場



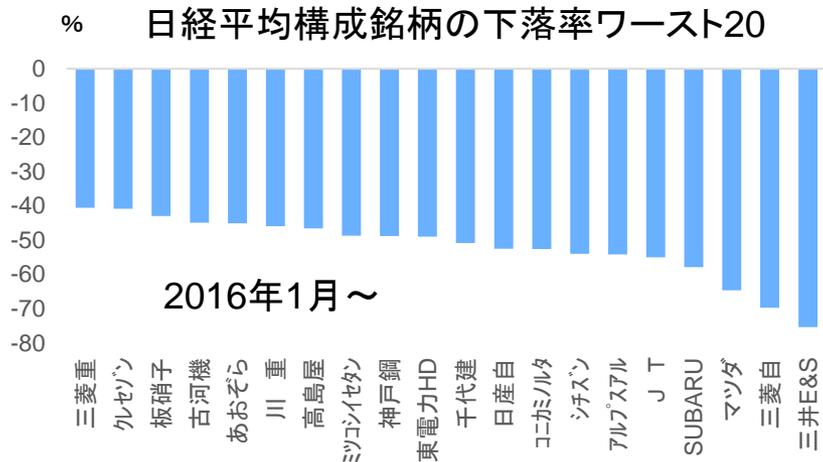
◆ 米国の長期金利の上昇により円安期待が高まる：足元の米国債券利回り(長期金利)は上昇、ドル円は円安傾向にある。コロナ禍における金融緩和政策により、FFレート(短期金利)は実質ゼロ金利となった。米10年債利回りはFFレートの低下と景気減速を織り込み、昨年の夏頃には一時、0.5%台にまで急低下した。その後の米10年債利回りは、米国の景気回復を織り込むようにじわりじわりと上昇し、足元では1.5%程度となっている。今後の見通しについては、今後2年程度はFFレートは実質ゼロ金利が維持されようが、米10年債利回りは景気回復によるインフレを織り込むように2%に近づくとみている。

◆ 米10年債利回りとの連動性がみられるドル円レートだが、昨年後半は米10年債利回りの上昇にあまり反応せず、円高ドル安トレンドが継続していた。このトレンドに変化がみられるのが今年に入ってからで、1月5日に102円台をつけたのを直近の円高ピークに円安へとトレンドは変化している。米10年債利回りの更なる上昇により、ドル円は110円までの円安が視野に入ろう。米10年債利回りが2%にまで上昇しても、歴史的には依然として低水準である。

どのような銘柄を物色するのか？



出所：Quick、アイザワ証券作成、2016年1月4日～2020年2月25日



出所：Quick、アイザワ証券作成、2016年1月4日～2021年2月25日

◆ 短期ではバリュー株にうま味が出て長期ではグロース株に軍配：日経平均が大きな節目であった3万円に乗せたことにより、株価には達成感が出てきたとみる向きもある。しかしながら、日経平均には更なる上昇に期待が持てるとみている。そう考える背景には、日本企業の成長ポテンシャルである。今後も日経平均のEPSは拡大をし続け、EPSの上昇を反映する形で日経平均は上昇する可能性がある。

◆ このような見通しのなかで、狙いたい銘柄はグロース株である。相場が調整局面を迎えた場合など、バリュー株がもてはやされる場面は過去にも何度もあるが（毎年バリューがもてはやされるバリュー株相場は何回もある）、長い目でみると大きく上昇しているのはグロース株である。参考までに、2016年から足元までの日経平均構成銘柄のトップ20とワースト20をスクリーニングしたが、上昇銘柄にはハイテク銘柄が多く、下落銘柄には自動車や重厚長大銘柄が目立った。上昇率トップのアドバンテの上昇率は893.7%と約10倍（952円→9460円）であった。

今月のストラテジー

2月の相場→日経平均は3万円の大台を回復

◆2月に日経平均は1990年8月以来（30年6カ月ぶり）となる3万円台を回復した。従来からの大胆な金融緩和に加え、20年10-12月期は自動車、電子部品、産業機械が好決算、円安傾向のドル円相場、コロナワクチン普及への期待、などが株式市場にプラス材料となった。3万円時点における日経平均の予想PERは23倍、PBRは1.3倍となっており、コロナ禍において上期の決算が大きく落ち込んだことを考えるとバリュエーションに極端な割高感はないといえよう。

◆来期以降の企業業績に期待：来期の企業業績の見通しだが、20年10月～12月の決算では製造業を中心に回復がみられた。21年3月期上期（20年4月～9月）の決算がコロナ禍によって厳しいものであった反動から、来期の決算は回復が期待出来るというのがメインシナリオだろう。昨年の世界経済はいち早く新型コロナの封じ込めに成功した中国が独り勝ちとなって世界経済の回復に貢献したが、今年は成長の牽引役として米国が加わる可能性が高い。米中を成長エンジンとして、株式市場には金融緩和に加え、世界経済の回復という要因が加わる。足元における株価調整の懸念材料である米国の長期金利の上昇だが、短期的には株価にマイナス材料だが、長期金利の上昇を景気回復のシグナルととらえれば、今後は企業業績の成長期待を株価は織り込む段階に入っていくだろう。金利上昇が一段落してバリュエーションを正当化できる水準にまで株価が調整すれば、企業業績の拡大によるEPSの上昇に反応した株価の形成が進むだろう。日本企業は、①コロナ禍からの業績回復、②円安ドル高、③GoToなど政策による内需への挺入れ、④構造改革効果、など来期以降の業績拡大が期待される。

◆前倒しとなった社会の変化、構造改革：コロナ禍によって大きく2つの変化が前倒しでもたらされた、一つがデジタルシフトであり、もうひとつが構造改革である。実体経済の落ち込みに加え、この2つの変化によって新しいものが成長し、古いものに退出が迫られた。社会の代謝が進んだことにより、今後の成長分野がみえた。オンライン会議、キャッシュレス決済、EVなどなど、これらの社会を裏から支える情報通信技術、半導体、電子部品などは大きな成長の入り口に入ったといえる。

投資スタンス

最近の日経平均は3月に軟調となる傾向があることと、現在の水準は200日移動平均線から大きく乖離している状況から、今年3月の日経平均も軟調な展開が予想される。しかしながら、日経平均は調整をこなしながら値固めをし、企業業績の拡大を織り込む形で再度の高値を目指す展開を想定する。調整局面ではバリュー株優位の相場ともなるだろうが、今後の株価の上昇率はグロース株が優位とみており、調整局面のグロース株を拾いたいところだ。

横山泰史

今月の注目銘柄

・世界で戦うグローバル企業

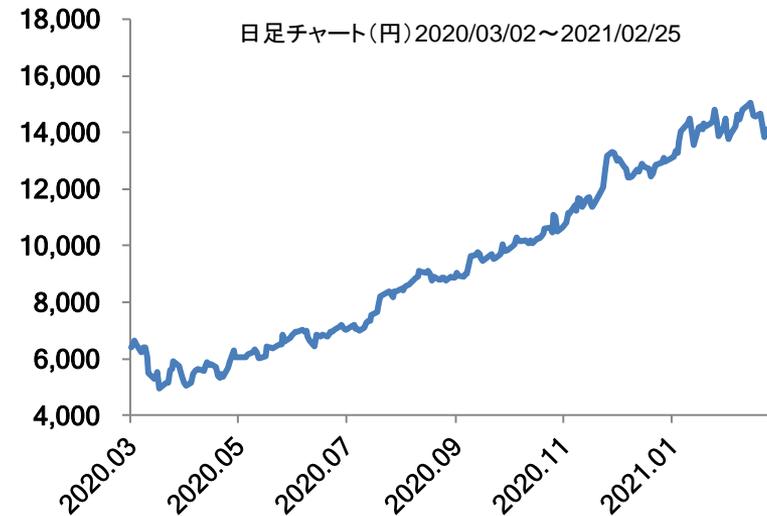
- ・日本電産
- ・ソニー
- ・ソフトバンクグループ
- ・キャノン
- ・日立製作所
- ・TOWA

・大型バリュー株

- ・鹿島建設
- ・三菱UFJフィナンシャル・グループ
- ・MS&ADインシュアランスグループホールディング

株価:(2021/02/25)	14,110円
52週高値:(2021/02/16)	15,175円
52週安値:(2020/03/23)	4,837.5円
予想PER	68.8倍
PBR	8.41倍
予想配当利回り	0.42%
時価総額	84,135億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



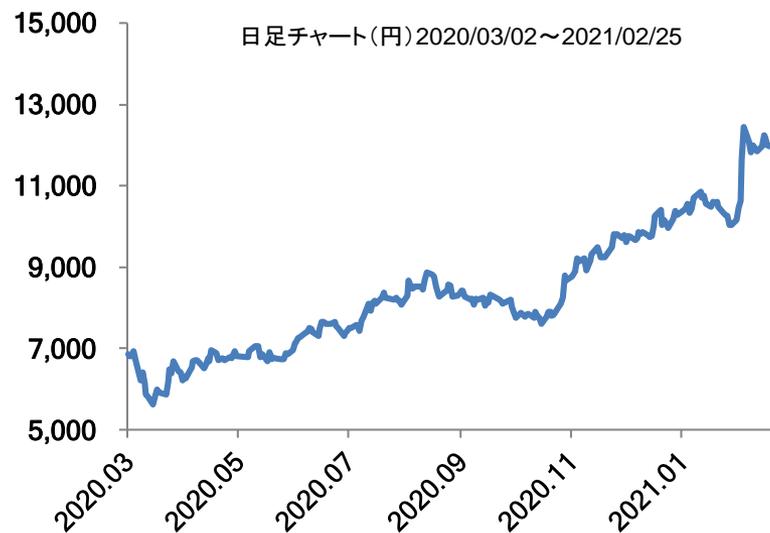
- ◆ 2021.3期第3四半期累計（4-12月の9ヵ月）の決算は、売上高が前年同期比+2.2%の1兆1850億円の増収となって第3四半期累計としては過去最高を更新、営業利益は増収効果とコスト削減効果によって同+24.0%の1155億円と2桁の増益を確保した。
- ◆ 2021.3期通期の業績予想について、売上高は従来予想比で据え置いたが、営業利益は従来予想の1400億円から1550億円へと+150億円に上方修正した。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	14,754	—%	1,292	—%	1,298	—%	1,099	—%	186.5	52.5
2020/03 実績	15,348	4.0%	1,103	▼14.6%	1,069	▼17.6%	600	▼45.4%	102.1	55.0
2021/03 予	15,500	1.0%	1,550	42.6%	1,500	42.6%	1,200	105.3%	204.9	60.0

国際基準 (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり、2020年4月1日より1株を2株に株式分割を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	11,570円
52週高値:(2021/02/05)	12,545円
52週安値:(2020/03/13)	5,297円
予想PER	13.1倍
PBR	2.65倍
予想配当利回り	0.47%
時価総額	145,904億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

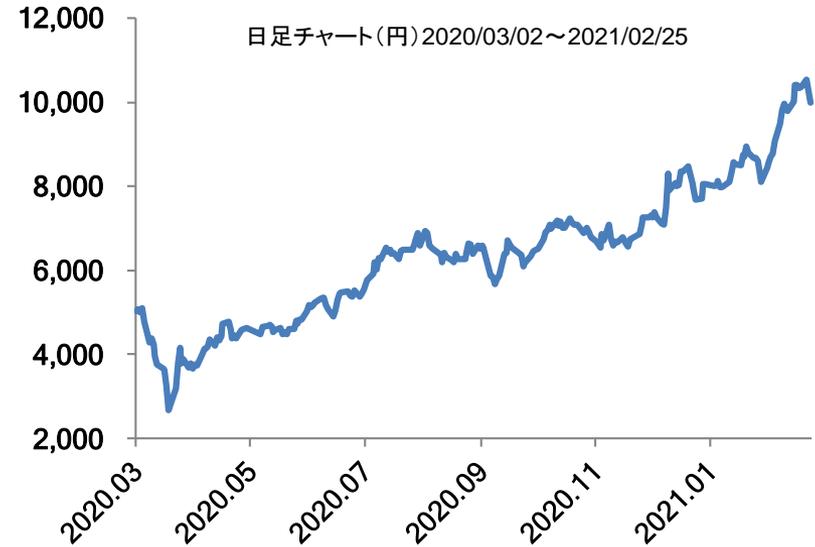


- ◆ 20年10-12月（3ヵ月）の売上高は前年同期比+9.4%の2兆6965億円、営業利益は同+19.7%の3592億円であった。新しくリリースされたプレイステーション5の10-12月の販売台数は450万台と好調に推移して増収増益を牽引した。
- ◆ 2021.3期通期の会社予想の上方修正を発表。修正額は売上高+3000億円、営業利益+2400億円である。修正後の営業利益率は10%超えの見通し。（横山 泰史）

業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	86,656	1.4%	8,942	21.7%	10,116	44.7%	9,162	86.7%	723.4	35.0
2020/03 実績	82,598	▼4.7%	8,454	▼5.5%	7,994	▼21.0%	5,821	▼36.5%	471.6	45.0
2021/03 予	88,000	6.5%	9,400	▼11.2%	11,200	40.1%	10,850	86.4%	—	—

米国基準 (単位: 億円、予: 会社予想 EPS、配当1株当たり、2021.3期は非開示) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	10,365円
52週高値:(2021/02/22)	10,630円
52週安値:(2020/03/19)	2,609.5円
予想PER	9.6倍
PBR	2.41倍
予想配当利回り	0.40%
時価総額	216,609億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

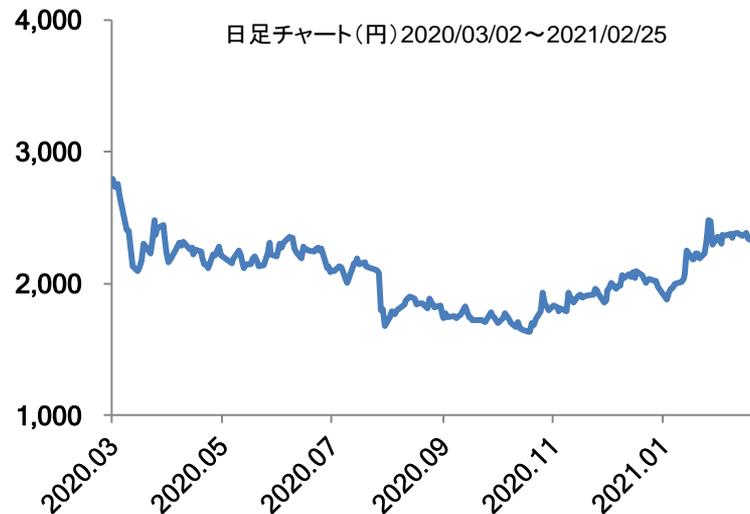
- ◆ 2021.3期第3四半期累計（4-12月の9ヵ月）の売上高は前年同期比+6.1%の4兆1380億円、純利益は同6.4倍の3兆552億円であった。大幅な増益は、投資事業であるSVF（ソフトバンク・ビジョン・ファンド）が好調に推移したことが要因。
- ◆ SVFの累計投資成果（スタート時点から2020年12月末）は、SVF1は価値増加が40社、価値減少が43社で投資利益は+2.1兆円、SVF2は価値増加は5社、価値減少が4社で投資利益は+0.5兆円である（1ドル103.50円換算）。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	60,935	—%	20,736	—%	16,826	—%	14,111	35.8%	634.0	44.0
2020/03 実績	61,850	1.5%	▼13,646	—%	354	▼97.9%	▼9,615	—%	—	44.0
2021/03 予	—	—%	—	—%	—	—%	—	—%	—	—

IFRS (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	2,379.5円
52週高値:(2020/02/26)	2,839.5円
52週安値:(2020/10/20)	1,627円
予想PER	21.6倍
PBR	0.96倍
予想配当利回り	3.36%
時価総額	31,736億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所:QUICK



- ◆ 新年度となる2021.12期の業績見通しは、売上高が前期比+7.6%の3兆4000億円、営業利益は前期に落ち込んだオフィス的大幅回復、メディカルや産業機器の売上増加によって同+43.4%の1585億円と4期ぶりの増収増益を狙う。
- ◆ 前期の1株当たりの配当はコロナ禍における業績の落ち込みにより半減した。今期は業績の回復が予想されており、配当も増配が期待できよう。(横山 泰史)

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	35,933	▼9.1%	1,744	▼49.1%	1,955	▼46.1%	1,250	▼50.5%	116.8	160.0
2020/12 実績	31,602	▼12.1%	1,105	▼36.6%	1,303	▼33.4%	833	▼33.3%	79.4	80.0
2021/12 予	34,000	7.6%	1,585	43.4%	1,765	35.5%	1,150	38.0%	110.0	-

米国基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	5,151円
52週高値:(2021/02/25)	5,151円
52週安値:(2020/03/23)	2,524円
予想PER	13.4倍
PBR	1.70倍
予想配当利回り	1.94%
時価総額	49,855億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- 20年10-12月（3カ月）の売上高は前年同期比+4.5%の2兆2189億円、調整後営業利益は同▼8.3%の1361億円であった。売上高は買収したパワーグリッド事業により増加したが、買収にともなう償却費の増加により調整後営業利益は減少した。
- 会社側は2021.3期の通期見通を上方修正。修正額は従来予想比で売上高が+3600億円、調整後営業利益が+200億円である。売上高の上方修正の要因は、ホンダ系の自動車部品メーカーを経営統合して日立Astemoを設立したことによる。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		調整後営業利益		継続事業税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	94,806	1.2%	7,550	5.6%	5,165	▼19.1%	2,225	▼38.7%	230.5	90.0
2020/03 実績	87,673	▼7.5%	6,619	▼12.3%	1,803	▼65.1%	876	▼60.6%	90.7	95.0
2021/03 予	83,000	▼5.3%	4,200	▼36.5%	6,710	272.2%	3,700	322.4%	383.0	-

国際基準 (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり、2018年10月1日付けで5株を1株に株式併合を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	2,074円
52週高値:(2021/01/15)	2,341円
52週安値:(2020/03/23)	600円
予想PER	21.1倍
PBR	1.76倍
予想配当利回り	0.77%
時価総額	518億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

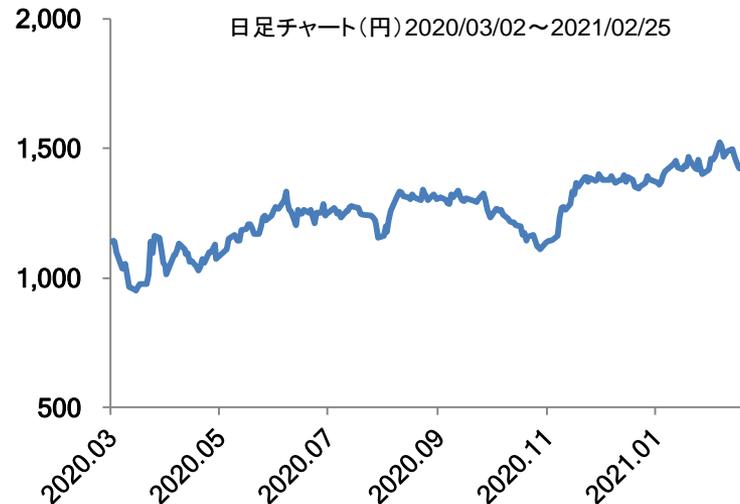
- 2021.3期第3四半期累計（4-12月の9カ月）の決算は、半導体製造ライン向けコンプレッション装置の販売が好調で、売上高は前年同期比+10.2%の207億円、営業利益は23.3億円（前年同期は1.9億円）と収益性は大きく改善した。
- 20年10-12月（3カ月）の受注については前年同期比で2倍以上となる+115.6%の140.6億円と大幅増加。（横山 泰史）

■業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	283 ▼8.8%	9 ▼74.6%	9 ▼73.5%	9 ▼71.0%	35.1	16.0
2020/03 実績	253 ▼10.7%	8 ▼13.3%	6 ▼31.1%	4 ▼58.0%	14.8	16.0
2021/03 予	290 14.8%	33 306.3%	34 425.5%	25 564.3%	98.0	16.0

日本会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	1,422円
52週高値:(2021/02/08)	1,523円
52週安値:(2020/03/17)	909円
予想PER	8.9倍
PBR	0.84倍
予想配当利回り	3.51%
時価総額	7,517億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

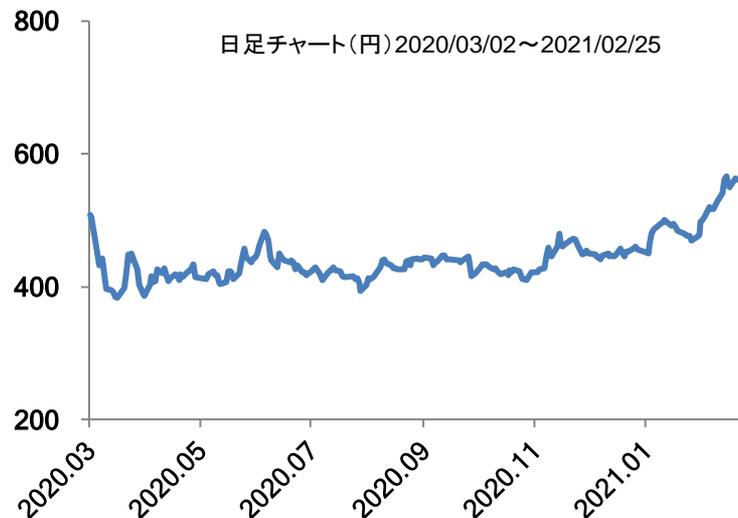


- ◆ 建設大手（スーパーゼネコン）の一角、国内建設工事（建築、土木）が主力、海外や不動産にも展開。都市再開発など国内建設需要は高水準継続。
- ◆ 2021年3月期3Q（第3四半期）累計実績は 減収・営業増益、新型コロナ影響は一部にとどまり、完成工事利益率は想定よりも上振れ。通期会社予想に対する利益進捗率は87～96%に達し、単体工事繰越高は1.7兆円弱を確保。（水口 活也）

■業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	19,743	7.8%	1,426	▼9.9%	1,629	▼9.4%	1,098	▼13.4%	211.7	38.0
2020/03 実績	20,108	1.8%	1,320	▼7.5%	1,466	▼10.0%	1,032	▼6.0%	201.0	50.0
2021/03 予	19,100	▼5.0%	1,150	▼12.9%	1,230	▼16.1%	800	▼22.5%	156.8	50.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	568.1円
52週高値:(2020/02/24)	573円
52週安値:(2020/03/23)	380円
予想PER	13.2倍
PBR	0.43倍
予想配当利回り	4.40%
時価総額	77,159億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

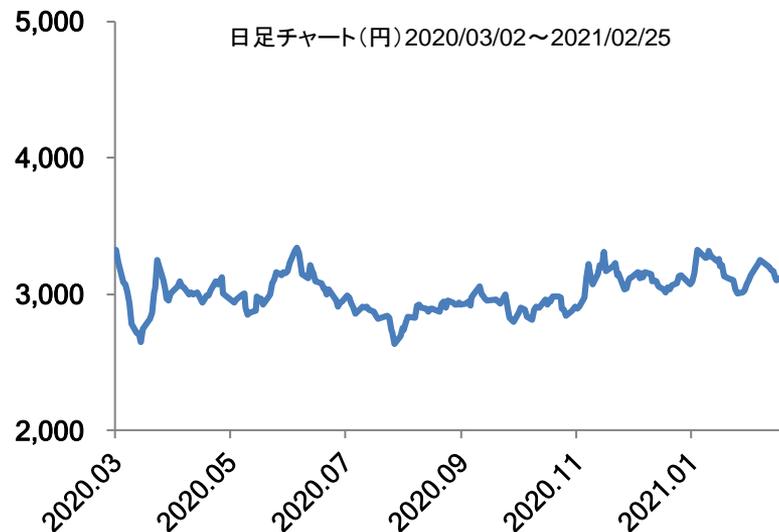
- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券、カード・ローンなどに展開。米国とアジアに地域銀行、モルガンスタンレーは持分法適用関連会社。
- ◆ 2021年3月期3Q（第3四半期）累計実績は 減収・経常減益、与信費用積み増しが主因だが、市場関連は好調。3Q段階で通期会社純利益目標6000億円を超過。財務健全性は維持、株価指標に割安感、株主還元上乘せに期待。（水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	66,974	10.4%	13,480	▼7.8%	8,726	▼11.8%	66.9	22.0
2020/03 実績	72,990	9.0%	12,357	▼8.3%	5,281	▼39.5%	40.9	25.0
2021/03 予	—	—%	—	—%	6,000	13.6%	—	25.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/02/25)	3,105円
52週高値:(2020/02/26)	3,645円
52週安値:(2020/03/17)	2590.5円
予想PER	12.4倍
PBR	0.59倍
予想配当利回り	4.83%
時価総額	18,427億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険にも事業展開。大型災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2021年3月期3Q（第3四半期）累計実績は、減収・経常増益。新型コロナ影響による海外保険の下振れが主因だが、3Q段階で通期会社予想を超過。財務安定性には余力あり、自己株取得の再開に加え、株主還元拡充に期待。（水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/03 実績	55,004	5.4%	2,908	37.5%	1,927	25.1%	328.7	140.0
2020/03 実績	51,683	▼6.0%	1,577	▼45.8%	1,430	▼25.8%	248.3	150.0
2021/03 予	—	—%	2,000	26.8%	1,400	▼2.1%	247.9	150.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：藍澤証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第6号

（本社）東京都中央区日本橋1-20-3

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）



株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合は1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合は3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。